海外安全対策情報 2019年度第3四半期（10～12月）

2019年1月16日
在グアテマラ日本国大使館

1 社会・治安情勢

- (1) 9月4日からイサバル県およびその周辺5県に発出されていた非常事態宣言が、10月10日、その延長（30日間）が国会により可決された。延長理由は、同地域において麻薬取引に関係する暴力事件が続き、死傷者が発生する可能性がまだあり、同地域の秩序が保たれていないと判断されたためである。
- (2) 11月4日、政府は非常事態宣言の解除を決定した。9月の同宣言以降、政府は対象地域に軍を増員し麻薬対策を強化した。その結果、以下のような成果が確認できたため同宣言を解除するに至った。
- ア 逮捕件数：985
 - イ 押収した武器：111
 - ウ 押収した弾薬：797
 - エ 破壊したコカイン製造施設：1
 - オ 根絶したコカの葉栽培用地：32
 - カ 使用不可にした違法滑走路（麻薬輸送用小型機の発着場所）：17
 - キ 根絶したマリファナ草：44万3,671（株）
- (3) 対日感情は良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

- (1) 国家文民警察の発表によると、2019年10月～12月の当国における総犯罪発生件数は4,512件と前年同時期5,424件と比較して912件減少（16.8%減）した。殺人件数は842件と、前年度同時期の965件と比較し123件減少（12.7%減）しており、その他の犯罪件数も軒並み低下している。

殺人	842件	（前年比	12.7%減）
傷害	733件	（	” 29.0%減）
強盗・窃盗	2,281件	（	” 9.0%減）
強姦	83件	（	” 10.0%減）
誘拐	3件	（	” 40.0%減）

行方不明（政権交代による治安当局の業務一時停止により、現時点では情報入手できず、判明次第掲載予定）

家庭内暴力	159件	（	” 38.9%減）
-------	------	---	-----------

(2) 犯罪件数は低下の傾向にあるものの、未だ決して安全とは言えない状況と考えられる。たとえば本四半期においては、邦人被害（パスポートなどの盗難）が4件も確認されている。今後の犯罪の発生件数の動向に注目して判断する必要がある。

(3) 邦人の被害事案

ア 10月14日午後2時頃、首都グアテマラシティ第13区にあるスーパーマーケットの駐車場において、在留邦人男性が車上荒らしにあう事件が発生。明るい時間帯の犯行でありかつ、当該店舗は在留邦人もよく使用する店舗であり、警備員が常駐している場所であった。

イ 11月22日午後6時頃、首都第14区のショッピングセンター前の遊歩道で、UBER待ちの邦人女性が携帯を強奪される事件が発生。事件現場は在留邦人が日常的に使用し、徒歩でも行動する可能性のある安全とされる場所であった。

(4) 邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 10月25日午前11時頃、首都第10区においてバイクを使用した女性1人への強盗が発生。未遂に終わったものの、事件現場は在留邦人の住む地域であり、通勤に使用される可能性のある経路であった。

イ 11月12日午前3時頃、首都第10区内の当館から数百m離れた地点において、男性1人への銃を使用した強盗傷害事件が発生。事件発生時刻は深夜であったものの、その現場は在留邦人の通勤経路になり得る場所であった。

ウ 11月21日午前4時半頃、首都10区（当館から約1kmの地点）において走行中のオートバイが銃撃され、オートバイを強奪される事件が発生。事件現場は、在留邦人の通勤経路になり得る場所であった。

エ 12月31日14時頃、首都第10区（当館から数百mの地点）において強盗殺人事件が発生。事件現場は在留邦人が日常的に使用する地域であった。

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか、報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

脅迫の電話およびメールは、腹いせやいたずらによるものが大部分であるものの、避難や警察当局への通報などの処置をすることが肝要である。